

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	区制施行75周年記念事業	部課名	総務企画部総務企画課	課長名	五味智子
		担当者名	小室・富田	内線	2211
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（19年度）	区制施行75周年記念事業(02-36-50-01)				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	19年度	根拠		
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	計画推進のために[]			
	政策	区民の主体的な区政参画と連携強化[13]			
	施策	区民参画・協働の推進[13-01]			
目的	平成19年は、区制施行75周年の節目を迎える年であり、また、3月には、議会の議決を経て、「幸福実感都市あらかわ」を将来像として掲げた基本構想を策定し、区が新たなスタートをきった年である。これを契機とし、記念事業を通して、区政への関心を高め、区民の主体的なまちづくりへの参画を促進するとともに、わがまちあらかわへの愛着心を育み、区民相互の連携を醸成する。また、区の情報幅広く内外へ発信し、地域に対する誇りと愛情を深めるとともに、積極的に区存在感をアピールし、イメージアップを図る。				
対象者等	区民等				
内容	<p>【川の手荒川まつりにおける交響詩「荒川・隅田川」の演奏】 19年度当初のイベントであり、区最大の行事である川の手荒川まつりにおいて、交響詩「荒川・隅田川」を演奏し、75周年記念事業についての区民の機運を高める。</p> <p>【ファンファーレの制作】 区の象徴の一つとして、「幸福実感都市あらかわ」をイメージしたオリジナルの楽曲を制作し、区の式典等において活用する。</p> <p>【記念モニュメント（「シュプリングエン～絆の和～」 作者：東京藝術大学学長 宮田亮平氏）の設置】 地域の芸術・文化発信のシンボルを区役所庁舎に創設（20年3月）し、区民が優れた芸術作品にふれる機会を拡充し、文化の薫り高いまちづくりに寄与する。</p> <p>【シンボルマークの制定】 新たに区のイメージを表したシンボルマークを区民アンケートにより制定した（20年1月）。 区が作成する各種印刷物や封筒等に使用するなど、様々な場面で積極的に活用し、広く区外へ発信する。</p> <p>【記念式典の開催】 これまでの歩みを振り返るとともに、区への愛着心を深めるための式典を10月8日に開催する。</p>				
経過	昭和27年 20周年記念事業（記念式典） 昭和32年 25周年記念事業（記念式典） 昭和37年 30周年記念事業（記念式典、感謝状贈呈式、職員表彰式、記念のつどい） 昭和57年 50周年記念事業（記念式典、記念祭、記念出版物等） 平成4年 60周年記念事業（コンサート、神津島ふれあい航路） 平成14年 70周年記念事業（感謝状贈呈式）				
必要性	区の発展は区民とともにあるものであり、こういった年月の節目をきっかけとしてとらえ、記念行事を行うことを通じて、区を支えてこられた方へ感謝の意を表すとともに、区への関心を高め、愛着心を育む機会とする。				
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額						22,021	0	
決算額（19年度は見込み）						21,848	0	
人件費						14,091		
【事務分担量】（%）						165		
合計（+）	0	0	0	0	0	35,939	0	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	35,939	0	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費			報償費	303		
	需要費			食糧費	115		
	需要費			消耗品費・印刷製本費	3,551		
	手数料			手数料	261		
	委託料			委託料	12,888		
	使用料			使用料・賃借料	343		
	備品購入			備品購入費	4,388		

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
	シンボルマーク区民アンケート応募総数			11,811			応募期間 H19.10.21～11.20
	記念式典来場者数			1,000			概数 会場定員は1,200人程度

（問題点・課題）	（指標分析）	シンボルマークの積極的な使用を促進するとともに、統一的な使用（大きさ・ロゴ配置）について管理を徹底する。 ファンファーレを広く普及するため、活用方法を具体的に検討する必要がある。
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）	
	シンボルマーク制定状況 22区中10区 中央区、墨田区、江東区、品川区、杉並区、豊島区、北区、板橋区、足立区、葛飾区	

問題点・課題の改善策検討		
	平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	シンボルマーク使用指針による、庁内及び区内外への周知	各所において統一的、効果的に使用される。
	区内の小中学生がファンファーレを演奏できるように楽曲の編曲を行う。	区のファンファーレに小さいころから慣れ親しむことで、荒川区に愛着心を持つ。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	継続	今後も周年行事を区のPR等の機会ととらえ、積極的に利用していく。ファンファーレ、シンボルマークについては、引続き周知に努める。

況議	（要質問状）	
----	--------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	荒川区区政改革懇談会	部課名 担当者名	総務企画部総務企画課 小林・鈴木・田中	課長名 内線	伊藤 節子 2112
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	区政改革懇談会（05 - 36 - 50 - 01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	17 年度	根拠		
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価 事業体系	分野	計画推進のために[]			
	政策	区民の主体的な区政参画と連携強化[13]			
	施策	区民参画・協働の推進[13-01]			
目的	区民の区政参画の機会を拡大するため、幅広く区民から意見を聴くとともに、区政に関する政策提言を受ける。				
対象者等	区民(公募により委嘱した区政改革懇談会委員)				
内容	<p>【第1期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成17年度は、委員約70名を世代・ライフスタイル別に6グループに分け、月1回程度、荒川区の将来像について検討を行い、平成18年2月に提言を行った。 平成18年度は、「地域活性化・暮らしの安全分科会」「福祉・健康・子育て分科会」「まちづくり・環境分科会」「教育分科会」の4グループにより構成し、新たに各部担当者が会議進行役として参加し、各施策別の具体的な検討を行い、平成19年3月に活動・提言報告を行った。 <p>【第2期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成19年度は、新たに公募した委員50人により「地域のコミュニティ力をいかに高めるか」をテーマとして、今後の懇談会の進め方や地域コミュニティの現状と課題について議論を行った。 平成20年度は、地域ごとの5グループに分け、防犯、福祉、子育てにかかわる地域のコミュニティ力について議論し、平成21年3月までに提言を行う予定である。 				
経過	<p>【第1期】</p> <p>平成16年度 実施検討 平成17年 6月 委員公募 平成17年 7月 委員選考・委嘱・第1回懇談会開催 平成17年11月 中間発表会開催 平成18年 2月 最終報告会開催(区長へ提言書提出) 平成18年 5月 18年度第1回懇談会(分科会)開催 平成19年 3月 活動・提言報告会開催</p> <p>【第2期】</p> <p>平成19年10月 委員公募・選考 12月 委員委嘱・第1回懇談会開催(20年6月1日まで4回開催)</p>				
必要性	これまでの行政主体の施策を見直し、区民の視点から、区民の求める施策を検討し、実施する必要がある。そのために、幅広い区民から意見を聴き、政策提言を受ける必要性は高い。また、区民との協働を推進し、区民の区政に関する意識の向上にも寄与することから必要性は高い。				
実施方法	<p>(2一部委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)</p> <p>[20年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 懇談会委員を地域ごと(南千住・荒川・町屋・尾久・日暮里)の5つのグループに分け、子育て、防犯、福祉等の各テーマを概ね2回ずつ討議する。 各グループの討議の進行役は、コンサルタントが行う。(19・20年度委託業者 (株)地域計画総合研究所) 				

予算・決算額等の推移	(単位:千円)							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額				2,930	3,336	4,518	5,579	
決算額(20年度は見込み)				242	3,267	3,024	4,961	
人件費				9,309	6,661	5,978		
【事務分担量】(%)				108	78	70		
合計(+)	0	0	0	9,551	9,928	9,002	4,961	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	0	0	0	9,551	9,928	9,002	4,961	
実績の推移								
	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	懇談会開催数				45	29	3	

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）		
	報償費	託児	0	託児	6	託児	96
	食糧費	賄い	234	賄い	18	賄い	308
	一般需用費	消耗品費	0	消耗品費	0	消耗品費	30
	役務費	郵送料	0	郵送料	0	郵送料	60
	委託料	運営支援委託等	3,010	運営支援委託等	2,969	運営支援委託等	5,049
	使用料	会場使用料	23	会場使用料	33	会場使用料	36

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	委員の懇談会参加率	66%	46%	69%	70%	80%	
	委員の懇談会満足度				100%	100%	委員に対してアンケートを実施し、数値を記載する。

（問題点・課題 指標分析）	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会における議論を深めるため、参加率を向上させる工夫が必要である。 ・取組から5年目を迎える21年度以降の懇談会の方向性を検討する必要がある。 ・区政懇の参加をきっかけとして、懇談会の委員や委員であった者が地域活動を行うことができるような側面支援が必要である。 ・懇談会の委員自らが会議運営をできるような仕組みづくりが必要である。
他区の実 施状況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
委員に対してアンケート調査を実施し、懇談会への満足度等を把握する。	委員の意見のうち、取り入れられるものを活動内容に反映させることで、さらに積極的な活動を促し、懇談会参加率の向上につなげることができる。
委員や委員であった方を対象としたファシリテーション講座や地域活動講座等を実施し、自主的な会議運営や地域活動に向けた支援を行う。	より自律的な取組を支援することにより、地域活動等に積極的に取り組む気運が高まる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	引き続き現状の内容を維持していく

（議案 要旨）	<p>H18年三定 団塊の世代及びシニア世代の区民が、行政との協働の担い手として活躍してもらうために区ができること</p> <p>H19年二定 区民参画について</p>
------------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	団塊の世代を中心とした地域活動の促進	部課名	総務企画部総務企画課	課長名	伊藤 節子
		担当者名	谷井・親川	内線	2113
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	地域活動の推進（05-11-60-01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	18年度	根拠法令等	荒川区地域活動支援事業補助金交付要綱
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	計画推進のために[]			
	政策	区民の主体的な区政参画と連携強化[13]			
	施策	区民参画・協働の推進[13-01]			
目的	団塊の世代の大量退職の時期を迎え、これらの人的資源を区政運営に生かす仕組みを整備するとともに、区民の地域活動を支援し、区民参画と協働の推進を図る。				
対象者等	定年退職後の区民、地域活動に関心のある区民				
内容	<p>団塊世代活動支援コーナー（区役所本庁舎2階に窓口を設置）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設場所・日時 区役所本庁舎2階（情報提供コーナーに併設） 月～金曜日、午前8時30分～午後5時15分 ・対象 ボランティア活動や短期的・長期的な就労等、地域活動への参加を考えている区民 ・主な業務内容 情報提供、担当部署や関係機関への取次、紹介、その他相談業務 ・関係機関との連携 ボランティアセンター、ふらっと・フラット、荒川区シルバー人材センター、JOBコーナー町屋等 <p>荒川区地域活動支援事業補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的 団塊の世代を中心とする区民対象の地域活動支援事業を実施する団体に対して、当該事業の実施に要する費用の一部を区が補助することにより、団塊の世代を中心とする区民の地域活動を支援し、もって地域の活性化に資することを目的とする。 ・補助対象団体 社会福祉法人 荒川区社会福祉協議会 ・補助対象事業 荒川ボランティアセンターの分室である地域活動サロン「ふらっと・フラット」が実施する、団塊世代を中心とする区民対象の事業 				
経過	<p>平成17年度～ 検討</p> <p>平成18年度～ ハローワーク足立、東京しごと財団等関係機関調査、先進自治体視察「団塊の世代の今後の就業等に関するアンケート調査」実施（19年1月、区内1000サンプル）</p> <p>平成19年度 荒川区地域活動支援事業補助金要綱制定、補助金交付（7,926千円） 11月 団塊世代活動支援コーナー開設、関係機関連絡会の開催（2回）</p>				
必要性	人的資源価値を持つ団塊の世代の活躍の場について、仕組みをつくることにより、団塊の世代本人の自己実現や地域の活性化に繋がることからその必要性は高い。				
実施方法	<p>（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動専門相談員による団塊世代活動支援コーナーにおける相談・取次 ・荒川区地域活動支援事業補助金の交付（H20年度予算額 6,724千円） 				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	-	-	-	-	2,043	17,291	10,283	
決算額（20年度は見込み）	-	-	-	-	1,512	9,906	10,283	
人件費				-	6,661	3,501		
【事務分担量】（%）				-	78	41		
合計（+）	0	0	0	0	8,173	13,407	10,283	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	8,173	13,407	10,283	
実績の推移								
事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
荒川区地域活動支援事業補助金交付額	-	-	-	-	-	7,926	6,724	

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報酬			地域活動専門相談員報酬	1,523	地域活動専門相談員報酬	3,166
	共済費			地域活動専門相談員共済費	181	地域活動専門相談員共済費	385
	特別旅費			地域活動専門相談員特別旅費	1	地域活動専門相談員特別旅費	8
	一般需用費			地域活動支援コーナー消耗品	85		
	備品購入費			地域活動支援コーナー備品	190		
	負担金及び交付金			地域活動支援事業補助金	7,926	地域活動支援事業補助金	6,724
	報償費	設立準備委員謝礼	52				
	委託料	調査委託費	1,460				

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	団塊世代活動支援コーナー受付数（件）	-	-	57	140	300	平成19年11月1日開設 1か月あたり25件を目標とする
	ふらっと・フラットの利用者数（人）	-	-	886	1,440	1440	平成19年9月12日開設 1か月あたり120人を目標とする

（問題点・課題）
 雇用延長がなされ、団塊世代活動支援コーナーへの相談数も少ない状況である。実際の大量退職期である2010年への準備段階として、知識・経験を生かしたい団塊世代の方を登録・マッチングするシステムの構築など、コーナーの機能を充実させるとともに、コーナーの存在を広く周知することが求められる。団塊世代の方を今後どのように活用するか、区としてどのような事業を展開するべきかを見極める必要がある。社会教育課「団塊パワー地域活性化支援事業」との連携を図る。既に事業を展開しているハローワーク足立等の関係機関との連携が必要である。区内各施設（シルバー人材センター、JOBコーナー町屋等）との連携を強化し、社会参加の幅広いニーズに対応する仕組みが必要である。

他区の実施状況	（実施 13 区 未実施 9 区）	
	港区 「団塊の世代等意識調査」、「チャレンジコミュニティ大学」 足立区 「団塊の世代の地域回帰推進事業」 杉並区 「すぎなみ地域大学」、「すぎなみ学倶楽部」 北区 「シニア元気塾」、「どん！MY起業（シニア対象）」など 葛飾区 各種ボランティア講座、「シニア活動支援センター」開設 台東区 「高齢年齢者再就職総合セミナー～団塊の世代を中心として～」 品川区 「しながわシニアネット」、「サポしながわ」	新宿区 「生涯現役塾」 世田谷区 「生涯現役プロジェクト」 豊島区 「団塊プロジェクト」 板橋区 「団塊の世代に関するセミナー」 練馬区 「(仮称)地域福祉パワーアップカレッジ」 文京区 「団塊世代お帰りのさいパーティー」 （平成19年8月調べ）

問題点・課題の改善策検討		
	平成21年度以降に取り組み具体的な改善内容	改善により期待する効果
	区報、ホームページ、チラシ等により、団塊世代活動支援コーナーの存在を広く周知していく。	団塊世代活動支援コーナーへの相談数の増加
	地域活動サロン「ふらっと・フラット」と連携を図り、団塊世代を対象とした事業を展開していく。	団塊の世代を中心とする区民の地域活動を支援し、もって地域の活性化に資することができる。
	社会教育課事業との連携を図り、団塊世代を今後どのように活用するか検討していく。	「荒川地域大学」で得た知識やネットワーク等を地域活動へ活かすことができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	区民との協働推進に資する。

（状況）
 H17・三定：団塊世代の地域活動の支援として、市民活動基金の創設を
 H18・四定：団塊の世代の受け皿づくりと区の役割について
 H19・二定：団塊の世代を始めとする中高年の社会参加に向けた受け皿整備を

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	区功労者表彰	部課名	総務企画部秘書課	課長名	米澤貴幸
		担当者名	茶谷 勇	内線	2005
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	区功労者表彰（05-29-50-01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	35年度	根拠	荒川区表彰規則
終期設定	有	無	年度	法令等	荒川区表彰要綱
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	計画推進のために[]			
	政策	区民の主体的な区政参画と連携強化[13]			
	施策	区民参画・協働の推進[13-01]			
目的	区の振興・発展に特に功労があった者の実績をたたえることにより、区民の福祉の増進に資することを目的とする。（荒川区表彰規則第1条） 区の振興・発展に特に功労があった者に対して、その功績をたたえ、区民の「ふるさと意識」を高めようとするもの				
対象者等	顕著な功績または模範として、推奨するにふさわしい業績もしくは善行のあった者 （平成15年度）138名（平成16年度）140名（平成17年度）172名（平成18年度）160名 （平成19年度）160名				
内容	1 区功労実施内容[被表彰者数：156名（一般143名、活動3名、特別10名）] (1)日 時 平成19年11月14日 午前11時～（平成18年度は11月14日に実施） (2)場 所 ホテルラングウッド 2階 ラングウッドルーム 式典・祝宴 (3)招待者 特別来賓者 区議会正副議長・衆議院議員・都議会議員・区内官公署長等 一般来賓者 推薦者・区議会議員・行政委員等 (4)表彰式 表彰状、記念品の授与（荒川区民交響楽団等による演奏あり） 記念品：扇子ペアセット（一般、活動）、竹製・花かご（特別功労） 2 議員表彰実施内容[被表彰者数：4名（一般3名、特別1名）] (1)日 時 平成19年10月17日 午後4時～ (2)場 所 区長応接室 (3)招待者 なし (4)表彰式 表彰状、記念品の授与 記念品：扇子ペアセット（一般）、竹製・花かご（特別功労）				
経過	昭和60年度 表彰規則・要綱の一部改正（被表彰対象者の拡大） 平成3年度 表彰規則・要綱の一部改正（区議会議員表彰基準の改正により特別功労者表彰の実施） 平成6年度 表彰規則の一部改正（要綱の廃止、制定 分野別表彰実施） 平成9年度 会場をサンパールからセレス西日暮里に変更 平成12年度 表彰規則・要綱の一部改正（題名及び組織改正による表彰区分の改正） 平成14年度 表彰規則・要綱の一部改正（特別賞の新設及び組織改正による事務局名の改正） 平成17年度 表彰規則・要綱の一部改正（活動賞の新設及び組織改正による事務局名の改正） 荒川区交響楽団による弦楽四重奏を実施 平成18年度 会場をセレス西日暮里からホテルラングウッドへ変更（セレス西日暮里がメモリアルホールとなったため）記念品を荒川ブランドの品物に変更				
必要性	区の振興・発展に特に功労があった者の実績をたたえ、区民の福祉を増進するため必要である。				
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	4,530	5,499	4,754	8,362	5,336	5,372	5,395	
決算額（20年度は見込み）	4,503	5,498	4,309	5,980	5,031	5,068		
人件費				690	854	854		
【事務分担当】（%）				8	10	10		
合計（+）	4,503	5,498	4,309	6,670	5,885	5,922	0	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	4,503	5,498	4,309	6,670	5,885	5,922	0	
実績の推移	事項名							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
特別 自治 保健 地域	5 3 1 58	5 1 3 42	4 4 0 43	4 12 5 67	4 3 0 48	10 7 0 63		
学校 商工 社教 街	9 2 18 0	11 7 14 0	6 8 12 0	3 4 13 0	5 9 21 1	5 2 14 3		
文化 消防 環境 税務	8 2 6 6	10 7 4 3	9 10 8 4	12 4 6 4	13 6 5 3	25 2 5 3		
善行 社福 無形 活動	1 14 2 -	1 30 0 -	0 31 1 -	1 31 1 5	3 34 1 4	2 15 1 3		

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	式典出演料一式	44	式典出演料一式	44	式典出演料一式	44
	食糧費	表彰式賄い	4				
	需用費	記念品	3,384	記念品	2,570	記念品	3,226
		記念バッチ	0	記念バッチ	100	記念バッチ	180
	印刷製本費	案内状等印刷	119	案内状等印刷	108	案内状等印刷	111
	役務費	表彰状等筆耕	130	表彰状等筆耕	180	表彰状等筆耕	280
	委託料	会場設営委託等	1,319	会場設営委託等	1,319	会場設営委託等	1,504

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
	区功労推薦者数	182	170	166	166	166	前年度実績を指標とする
	区功労受賞者数	172	160	160	160	160	前年度実績を指標とする

（問題点・課題分析）	
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
在職年数や年齢制限を設けず、推薦は各所管が行なう「活動賞」を平成17年度に新設したので、各所管へ制度の周知徹底を図るとともに対象となる方々の把握に努める。	区への功績が多であるが団体に属していない個人や一般功労に該当していなかった方々を推薦・表彰することで、より一層、区民福祉の増進に資することが期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	昭和35年から永年にわたって続けてきた制度であり、地域に広く定着しており、地域貢献等をなされている方々を表彰することにより、区として感謝と敬意を表するものである。また、区民の方々の自主的な地域活動等を進めるきっかけづくりとしても、続けることが必要である。

況議（要質問状）	
----------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	新年祝賀会	部課名	総務企画部秘書課	課長名	米澤貴幸
		担当者名	幸野佳紀	内線	2004
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	新年祝賀会（02-35-32-01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	不明年度	根拠	
終期設定	有 無		年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野 計画推進のために[]				
	政策 区民の主体的な区政参画と連携強化[13]				
	施策 区民参画・協働の推進[13-01]				
目的	年頭に当たり、日頃、荒川区の発展に寄与している各界・各層の代表者を招待し、区政への理解・協力を得ることを目的として開催する。				
対象者等	荒川区の発展に寄与している各界の代表者 平成17年度 招待者数 約1,624人 来場者数 約650人 平成18年度 招待者数 約1,638人 来場者数 約660人 平成19年度 招待者数 約1,659人 来場者数 約750人				
内容	(1)日時 毎年1月4日 11時～ (2)場所 ホテルラングウッド（ラングウッドルーム） (3)招待者 国・都・区議会議員、区内官公署長、行政委員、町会長、民生委員、保護司、その他の公共団体の長、区民栄誉賞受賞者、叙勲受章者、荒川区ゆかりの文化・スポーツ・芸能人等 (4)区制75周年事業 20年新年祝賀会では、荒川区シンボルマークの発表を行った。				
経過	区の発展に寄与していただいている各界の代表者を招待して実施している新年祝賀会への招待者数は、1,600名を超え（出席者は年650名～750名程度）で、新年祝賀会の現状からすると区内で対応できる会場は、ホテルラングウッドしかないことから、平成3年度から祝宴会場をサンパール荒川からホテルラングウッドに変更し、開催している。 平成17年から式典の開会に先立ち東京荒川少年少女合唱隊による合唱を、招待者からの祝辞の後に荒川区民交響楽団の弦楽四重奏を行うこととし、各界の代表が一堂に会する少ない機会を活かし、区民の文化活動をアピールする場を提供するという、従来の賀詞交換に加え新たな試みを実施した。				
必要性	荒川区の発展に寄与している各界・各層の代表者の区政への理解・協力を求めるために必要である。				
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） ホテルラングウッドに会場設営等一式を委託				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	3,011	3,017	3,141	2,936	3,260	3,104	3,325	
決算額（20年度は見込み）	2,983	2,990	3,101	2,894	2,897	2,991	3,325	
人件費				431	427	427		
【事務分担当】（%）				5	5	5		
合計（+）	2,983	2,990	3,101	3,325	3,324	3,418	3,325	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	2,983	2,990	3,101	3,325	3,324	3,418	3,325	
実績の推移	事項名							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
来場者数（人）	600	630	600	650	660	750		
招待者数（人）			1,538	1,624	1,638	1,659		
出席率（%）（÷ × 100）			39.0	40.0	40.3	45.2		

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）		金額（千円）		金額（千円）	
	報償費	手話通訳・出演者謝礼	80	手話通訳・出演者謝	80	手話通訳・出演者謝礼	150
	一般需用費	新年祝賀会案内状	36	新年祝賀会案内状	36	新年祝賀会案内状	63
	委託料	祝賀会会場設営委託	2,781	祝賀会会場設営委託	2,875	祝賀会会場設営委託	3,112

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	出席率	39%	40%	40%	40%	40%	

（問題点・課題分析）	
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区） 会費制実施（江東区、板橋区、足立区、新宿区、練馬区、豊島区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	荒川区の発展に寄与していただいている各界・各層の代表者の区政への理解・協力を得るために必要である。

況議（要質問状）	
----------	--